

県内首長インタビュー④

鴻巣市 原口 和久 市長 (63歳)



「健康なまちづくり」を推進中の原口市長はスポーツ全般が趣味で、常にアクティブ。

鴻巣市の歴史は約60年前に遡ります。1954年（昭和29）に1町5村（鴻巣町、箕田村、田間宮村、馬室村、笠原村、常光村）が合併し、県内17番目の市として鴻巣市が誕生しました。そして、2005年（平成17）には、吹上町、川里町と合併し、新「鴻巣市」として、昨年で合併10周年を迎えました。

鴻巣市内には、JR高崎線の鴻巣駅、北鴻巣駅、吹上駅の3駅があり、昨年春の上野東京ラインの開通により、鴻巣駅から東京駅まで約1時間で結ばれて、より便利な環境が整いました。さらに圏央道の開通により、交通アクセスが格段に向上しました。

首都50km圏内という地理的条件に恵まれた鴻巣市は、東京のベッドタウンとして、また、県央地域の中心都市として発展を続けています。

■人形のまち鴻巣 文化と伝統を継承

鴻巣市は、江戸時代から受け継がれている長い歴史と伝統を誇る「人形のまち」として全国的にその名を知られています。県の伝統的手工芸品にも指定されている「鴻巣びな」は、着物の着せ付けが関東一と言われるほど優雅で気品があり、現在も根強い人気があります。埼玉県は古くから人形作りが盛んで、各地でひな人形が作られていました。明治35年の埼玉県営業便覧によると、鴻巣では

31軒もの営業記録があり、他の地域と比べて群を抜いています。また、「赤物人形」は庶民に長く愛され続け、2011年（平成23）に玩具の製作技術として全国で初めて国の重要無形民俗文化財に指定されました。

人形のまち・鴻巣市をPRする風情あふれる「ひなの里」では、伝統産業のひな人形や赤物などの人形の歴史を学ぶことができます。

鴻巣市では、現在も職人や人形作家の手で当時の技法が守られ、「人形のまち」としての文化と伝統を継承しています。

■8つの日本一と1つの世界一

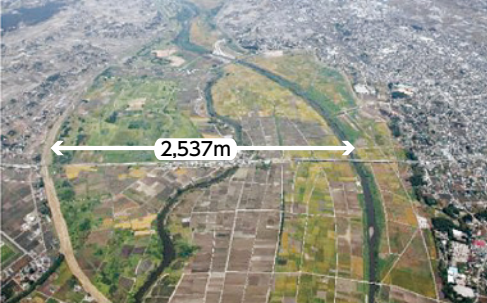
毎年3月のひなまつりの時期にマスコミなどで取り上げられる「ピラミッドひな壇」は31段7mを誇り、日本一高いピラミッドひな壇として全国的に有名になっています。市内各地で趣向を凝らしたひな壇が登場し、駅や市内の店先にもひな人形が飾られて、まち全体がひな祭り一色になります。

ピラミッドひな壇以外にも鴻巣市には多くの「日本一」があります。花のまちとしても有名な鴻巣市では、マリーゴールド、サルビア、プリムラの出荷量が日本一を誇り、荒川河川敷に咲き広がる3,000万本のポピー畑は東京ドーム2.5個分の12.5haの広さで栽培面積日本一です。

また、吹上地域の荒川に架かる荒川水管橋は、1,100.95mで日本一の長さです。さらに、鴻巣市と吉見町の間



今や全国的に有名になった「ピラミッドひな壇」は、ひな壇づくりからひな人形の設置まで大勢のボランティアの協力で成り立っています。



国土交通省が定めた川幅（河川敷を含めた堤防の間）が日本最長となる川幅にちなんで、ユニークなメニューや商品が続々と誕生しています。



麺の幅が8cmもある「このす川幅うどん」

を流れる荒川の川幅も2,537mと日本一の川幅です。この川幅日本一にちなんで作られた「このす川幅うどん」は、メディアでも取り上げられることが多く、昨年開かれた「第12回埼玉県

B級ご当地グルメ王座決定戦」では見事グランプリを獲得しました。この他にも鴻巣市の飲食店や製菓店では、川幅をイメージしたそばやロースカツ、餃子、鉄火丼、ロールケーキ、まんじゅうなどの川幅グルメが次々と誕生し、鴻巣特産品として定着しています。

そして、毎年10月に開催される「このす花火大会」で1分間に打ち上げられる尺玉以上打上げ数も平均75.5発と日本一です。この花火大会でメインとなるのが重さ464kgの四尺玉で、世界一の重量としてギネス世界記録にも認定されています。

鴻巣市では、こうした日本一・世界一にちなんだ数々のイベントを市民と協働で開催し、市の知名度向上や交流人口の増加、地域振興などを積極的に行っています。

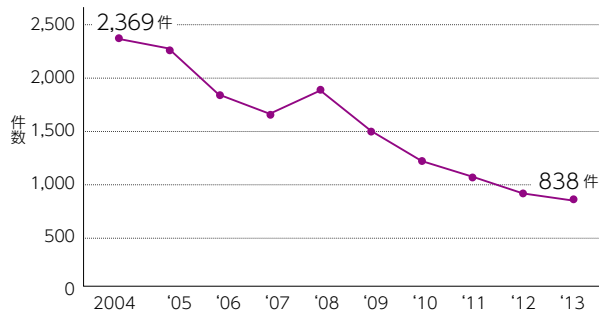
■来て見て住んで 鴻巣LIFE

現在四期目の原口市長は、市民が笑顔で元気に暮らす「人もまちも健康」を基本方針に掲げ、「健康なまちづくり」を推進しています。人が健康になることは、産業の健康にもつながり、結果として「まちの健康」につながるもので、市民の健康づくりや産業の振興、環境の保全など、鴻巣市全体の健康づくりを進めています。合併10周年を迎えた昨

鴻巣市の概要

人口(H28年1月1日 一住民基本台帳一)	119,192人
世帯数(同上)	47,979世帯
平均年齢(同上)	45.89歳
生産年齢人口比率(同上)	61.96%
面積(H26年全国都道府県市町村別面積調)	67.44km ²
名目市内総生産(H24年度市町村民経済計算)	2,737億1,400万円
製造品出荷額等(H25年工業統計)	1,774億8,366万円
事業所数(H26年経済センサス)	3,828事業所

■刑法犯認知件数の推移 (埼玉県警察本部発表資料より作成)

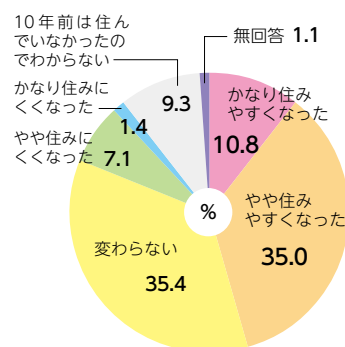


年10月には、市民が主体となって「健康づくり都市宣言」を行いました。

鴻巣市では、子育て・教育環境の整備にも力を入れています。子育て支援策として、県内でいち早く子ども医療費の中学校卒業までの無料化を実現したほか、各地域への児童センターの設置や全小中学校へのエアコンの整備、全小学校での自校式給食による食育の推進などを実施しています。さらに本年度からは、18歳以下の子どもが3人以上いる世帯を対象に、子ども医療費無料化を18歳まで拡大し、多子世帯の経済的負担の軽減に努めています。

また、鴻巣市では地域住民と協働して、安全な環境で安心して暮らせる「犯罪に強いまちづくり」を推進しています。市内の自主防犯活動を行う団体も多く、積極的な活動の成果

■10年位前と比べて住み良いまちになりましたか？



として、人口1,000人あたりの刑法犯認知件数(犯罪率)は年々減少しており、県内でもトップクラスの安全・安心なまちとなっています。

市政運営を検証するために毎年行っている「まちづくり市民アンケート」における「鴻巣市の住みやすさ」を合併直後の平成18年と直近の平成27年で比較すると、それぞれの回答項目において、評価が向上しており、特に「10年前と比べて住み良いまちになった」と回答した人が約46%となっています。鴻巣市では、「花かおり 緑あふれ 人輝くまち」とする将来都市像の実現に向けて、市民と一丸となって、総合的・計画的に施策を展開しています。